

令和元年度 生薬学・天然物化学関連教科担当教員会議 議事録

日 時： 令和元年9月21日（土）16時00分～17時30分

場 所： 北里大学 薬学部2号館 2階2202大講義室

議 題：

(1) これからの薬学教育について

話題提供者：和歌山県立医科大学 太田 茂先生

コアカリ再改定がスタートすることに先立ち、現行の薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年12月改訂版）の考え方や薬剤師として求められる基本的な資質などに関して説明があった。さらに、改定コアカリ実施の学生が卒業する令和2年から実施される薬剤師国家試験の出題基準や基礎系科目の意義について説明があった。最後に、太田先生から、生薬学・天然物化学は領域が薬学基礎（C5）と医療薬学（E2(10)）にまたがっており、担当の教員、周辺領域の教員と十分に議論して、講義や実習を実施し、生薬学・天然物化学の面白さを学生に伝えて欲しい旨の発言があった（配布資料参照）。出席者から質問や発言もあり、活発な議論が行われた。

(2) アンケート（現行のコア・カリキュラムに対する課題）のまとめ

取りまとめ：京都薬科大学 松田久司

本教科担当教員会議に先立ち実施した以下のアンケートについて集計を行い、その結果と自由記述から一部を抜粋して報告した（配布資料参照）。

（アンケート内容）

薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年改訂版のうち、C5とE2(10)を抜粋したEXCEL表に対し、以下の3項目について記述を依頼した。

(1) 各SB0sの実施の有無、実施している場合の年次に○を入れる。実施していない場合には空白とする。

(2) 課題・問題点についての意見（自由記載）

- ・追加すべき項目、不要または他の領域に移すべき項目などを含む
- ・SB0sに記載されていない各大学独自の項目

(3) 薬用植物園を利用しているSB0sがあれば、◎を併記する。

その後、星薬科大学・森田博史先生から、星薬科大学での薬用植物園の利用に関する取り組みの紹介があった。出席者から質問や発言もあり、活発な議論が行われた。また、本会議にて、漢方関連 E2(10)の講義はどの領域の先生が担当しているかについて追加

アンケートを行った。

(1) その他

日本薬学会 生薬天然物部会からの報告があった。

終了後、植物園協会と合同の意見交換会を行った。

生薬学・天然物化学教科担当教員会議

委員長・世話人 松田 久司

追記

1) 令和2年度委員長：森田博史先生（星薬科大学）

2) 令和2年度の開催場所：星薬科大学

（日本生薬学会第67回年会時、年会会長 森田博史先生）